

2025年1月25日

「希望の給食」上映会 & 吉川の有機農家さんトーク会 報告

有機農作物を学校給食に取り入れ、持続可能な経済を目指している自治体の事例紹介がされています

千葉県いすみ市：地元産有機米 100%の給食を実現。スタートは地域の生物多様性を未来に残す為の行政と市民による議論。そこから「安心安全な田んぼで作った米を子どもたちに食べさせたい」という農家の声が上がリ、学校給食に結びついた。

長野県松川市：果樹の町。遊休農地に悩む行政、地場産野菜を求める栄養士、有機農業に取り組み始めた生産者が協力し、地場産有機米・野菜を自校式調理で子どもたちに提供している。

東京都武蔵野市：民間委託ではなく財団方式を採用。一番の利点は顔の見える関係である。作っている人も食べる人もお互いが誰か分かり合えている。

韓国ファソン市：給食の有機化と無償化が一体になってすすむ韓国。「義務教育無償となっているなら、食育である学校給食は、無償であるべきだ」「学校給食は子どもたちの人権である」と掲げて、活動推進を続けている。

どの事例も、問題意識や課題を異にする母親、農家、行政、栄養士など様々な人が、「学校給食を有機食材で」と力を合わせています。

行政は、有機農家と学校給食をつなぐ仕組みを作り上げ、有機食材に変更していく際に増える経費を負担しています。その目的は、地域の産業振興や環境を守る事、子どもたちの健やかな育ちの為です。

行政がそれを推進する為には、市民が意見を出し続け、それを後押しすることが必要です。どの事例も一朝一夕に成し遂げられたものではなく、行動し続けて初めて形になると感じました。

●皆様からのご意見・ご感想

ご入会希望等お問合せはこちら！

MAIL: yoshikawa.shimin.net@gmail.com

FAX : 048-983-1835

●ポスティングボランティア募集中♪

●ご寄付のご協力もお願い致します！

ゆうちょ銀行 038 普通 7744921



映画上映後、吉川で有機農業を営む4人の農家さん(30年以上のベテラン2人と新規就農の若い2人)を囲んで、質問形式でお話を伺いました。

～参加者の感想より～



吉川市で持続可能な循環型農業を目指す方、頼もしいです。

一番農業を浴びるのは農家さん！なんて初めて知りました。虫対策のお話、初めて聞きました。有機農地がたくさん広がることを願っています。

(MO)

よしかわ市民ネットワーク

◆ 議案を読む会

5月25日(日)14:00～16:00

@コミュニティスペース くるり

◆ 6月議会予定

6月2日(月)～ 6月16日(月)

傍聴しよう！インターネット配信もあります。

◆ 議会傍聴ツアー

6月16日(月)(予定)

◆ まちかどカフェ&6月議会報告会

岩崎さゆり市議から市政の報告を

6月29日(日)9:30～11:30

@市民交流センターおあしす セミナールーム1, 2

岩崎さゆりの活動記録



岩崎さゆりの連絡先
sayur.ing.iwasaki@gmail.com

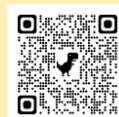


よしかわ市民ネットワークは
岩崎さゆりを市議会に送っています

よしかわ市民ネットワーク

3つのルール

- ① 任期は最長 3 期12年で交代
- ② 選挙はカンパとボランティア
- ③ 議員報酬はみんなの活動費



HP

よしかわ市民ネットワーク



市議会議員 岩崎さゆり

- ・ 災害時のトイレ整備 は スフィア基準で！
- ・ 農業従事者の確保・育成 のために

3月議会 岩崎さゆり 一般質問から

避難所の運営指針が国際基準に

国は、避難所運営の指針に「スフィア基準」を取り入れるよう改定しました。同基準では、避難所での1人当たりの居住スペースを 3.5平方メートル(約2畳分)確保。トイレは災害発生当初は50人当たり1基、一定期間経過後は20人当たり1基、男女比は女性用が男性用の3倍、などの指標が定められています。

スフィア基準とは

スフィア基準とは、国際基準である「人道憲章と人道対応に関する最低基準」の通称です。この基準は、アフリカ・ルワンダの難民キャンプで多くの方が亡くなったことを受けて、20年前に国際赤十字などが策定しました。ここでは、紛争や災害の際の避難所の環境の「最低限の基準」が定められています。しかし2024年1月の能登半島地震では、スフィア基準を満たさない環境が多く見られたそうです。

「吉川市では、スフィア基準に基づいて災害時のトイレ整備を考えているか」という質問に対し、「国が定める『避難所におけるトイレの確保管理ガイドライン』や、『スフィア基準』を参考としながら災害時のトイレ整備に努めていく」という答弁を得ました。



私たちのまち 私たちの手で



第44号 2025年4月発行

女性のトイレ対策は

避難所で、女性が安心してトイレを使うことができるよう、女性用の仮設トイレを男性用と離して設置することや、夜間のトイレ周りの照明設置など、避難所設置の際に配慮できるよう、市民への周知・啓発を求めました。

平時から防災・減災意識を育てて、高めていく取り組みのさらなる推進に期待したいと思います。

農業従事者の確保・育成を

令和の米騒動以降、農業への関心が急速に高まっていますが、担い手不足が喫緊の課題です。「市は、農業従事者の確保・育成に向け、どこに重点を置き、どのような方向を考えているか」を問いました。市の答弁は「新規就農希望者が地域に定着できるよう寄り添った支援、そして地域で活躍している農業従事者と連携し、農業の発展に取り組んでいく」というものでした。

埼玉県認定指導農業士のアピールを！

次代の農業の担い手に対し、指導的役割を果たしている農業者を、知事が「指導農業士」として認定しています。市内には5名の指導農業士がいらっしやいます。指導農業士の存在を新規就農者にアピールして、農業従事者の確保・育成が進むよう、市に求めました。



さゆりの毎日コツコツと

「第三者経営継承」～地域の農業を守り未来につなげる～

熊谷市へ視察に行きました。熊谷市では、後継者のいない農業経営を第三者に継承する「第三者経営継承」を積極的に実施しています。2019年から現在まで4件の第三者経営継承が行われました。そのうち3件は主穀分野(米麦の生産)の継承。全国的に見ても主穀の経営継承は事例が少なく、注目されています。

お会いしたIさんは長年、米麦を中心に農業経営に取り組み地域農業をけん引してきました。しかし、お子さんに農業を継ぐ意思がなく、今後の農業経営について悩んでいたそうです。23年1月にIさんは、さいたま市在住のTさんに、農地、施設、機械などの有形資産や栽培技術、販売先などの無形資産を継承されました。

Tさんが第三者経営継承を決めたのは、なんとIさんと出会ったその日！近くの農地で作業していた時に、たまたまIさんから声をかけられてお互いの現状を話す中で、Tさんは「Iさんの米麦を継ぎたい」と決意したそうです。

移譲希望者・継承希望者に広く知ってもらえるよう国、県、市で推進してもらいたいと思います。



麦畑：3月 熊谷市にて



差別

クルド人問題

～ジャーナリスト安田浩一氏の講演を聞いて

「埼玉県東南部でクルド人問題が起きている」というようなことを耳にする。「怖いね～」というニュアンスが独り歩きし、そんな空気が増幅される。だが私たちは、クルド人について何を知っているのだろうか。

クルド人とは

クルド人といってもクルドという国はなく、トルコやシリア、イラン、イラクにまたがる山岳地方に住みクルド語を話す民族のこと。

トルコ政府はクルド語を話すことを許さず、クルド系の政治活動やジャーナリストを理不尽な理由を付けて弾圧しているという。日本にいるクルド人はそうした迫害から逃れ、私たちの社会で共に生活している「難民」であり、トルコに戻ったら命の補償も危うい人たちだ。

しかし日本は、難民条約を批准しているにもかかわらず難民申請を受け付けない為、彼らは在留資格がないまま苦しい生活を送るしかなく、不法移民という言われ方をしている。

ヘイトスピーチ 怖いのはどっち？！

そんなクルド人に対し、「犯罪が増えた！出ていけ！」などというヘイトスピーチが行われている。差別禁止条例により、今までの場所でヘイトが出来なくなった人が県外から来て煽っている面も大きいようだ。ヘイトスピーチが繰り返されれば、怖いまち・怖い人たちのイメージも出来てくる。クルド人ではなくヘイトスピーチが問題なのだ。

「クルド人って怖いよね」という会話を耳にしたクルド人女性は、「怖いのは私の方だ！」と叫びたかったそうだ。想像してみたい。海外で心細い中、白い眼を向けられたらどんなに不安だろうか。

デマに流されず 支援の輪を！

デモやSNSによるヘイトが増える中、差別反対を訴える人や、直に会って交流しようという人も増えてきたそうだ。世界的に分断の方向に進んでいるともいわれるが、国や言語が違ってても身近に住む人同士が、語り合い協力していけば、共に住みやすいまちにすることも出来るのではないだろうか。(MI)



ボランティア「シニア2丁目」

3月8日「シニア2丁目」開催の第15回『シニア講座』に初めて参加しました。

ロシア東欧文化が専門の、元大学教授による「民話と民謡でみるロシアの暮らし」のお話でした。

日本でなじみの深い『大きなカブ』『てぶくろ』の民話や、「カチューシャ」「トロイカ」「黒い瞳」等の民謡に込められた意味や思いは？…ロシアは13世紀モンゴルの襲来を受けウクライナ、ロシア、ベラルーシに分かれ、『てぶくろ』はウクライナの民話であること、また1960年代のソ連時代、暗い歌は禁止され、本来悲しい歌だった「トロイカ」は楽しい歌に替えられたとのお話は、正調トロイカ(CD)を聴き納得！でした。

パワーポイントや講師および参加者の声楽家による歌も交えながらのお話によって、ロシアの歴史や地理なども興味深く学ぶことができました。参加者は男女のシニアが50名以上。ミーティングルームが満席でした。話し手聞き手双方に熱い思いが感じられた1時間30分の講座でした。

(YT)

「シニア2丁目」の会は2022年11月に市内在住のシニアが立ち上げたボランティアの会です。シニアの皆さんの交流の場を設けたり、地元企業をサポートしたりすることで、地域コミュニティとの関係を深めることを目的としています。

《講座内容》

講師：市内在住のシニア

テーマ：講師のキャリアを元に一任

日時：毎月第2土曜日

10:00～11:30

場所：市民交流センター おあしす

受講料：100円／回

問合せ：ボランティア「シニア2丁目」

事務局(浅野さん)

☎080-3691-0576

防災豆知識

携帯トイレの備蓄と練習

災害が発生したとき、仮設トイレ等が設置されるには、少しの時間がかかります。能登半島地震の時、仮設トイレが3日以内に設置された避難所は、10か所中1か所でした。

災害発生直後のトイレ対策として効果的なのは、便器に取り付けるだけで使える携帯トイレです。2024年、NPO法人「日本トイレ研究所」が行った調査では、自宅に備えているものとして、飲料水58.5%、懐中電灯57.2%、食料品46.0%に対し、携帯トイレは21.1%でした。

トイレはガマンができません。家庭や地域で携帯トイレを備蓄しておきましょう。いざという時スムーズに使えるように、平常時に使い方の練習をしておくことも大切です。

1人1日5回分をめやすに最低でも3日分は備蓄したいものです。避難用リュックにも入れておきましょう。避難所で既存のトイレをうっかり普段通りに使用してしまい水が流れず排泄物が積もって使用不可になった例はこれまでに幾度もありました。家庭や避難所において、あらかじめ皆が携帯トイレに馴染んでいることが、快適な避難生活の一步だと思います。(m)



2024年度 よしかわ市民ネットワーク 決算報告

(2024年1月～12月)

I 一般会計
《収入の部》 単位:円

項目	決算額	備考
会費	54,000	会員の皆様から頂いた会費
寄付金(個人)	111,400	
寄付金(団体)	4,068,976	代理人からの寄附
受取利息	281	普通預金
前期繰越	450,971	
合計	4,685,628	

《支出の部》 単位:円

項目	決算額	備考
人件費	723,000	事務局、代表、会計、運営委員
活動費	200,000	運営委員会、機関誌作業、外部会議
事務所費	78,724	事務所家賃、切手代、振込手数料、等
備品消耗品費	22,459	封筒・ラベル用紙、コピー・インク代、等
企画運営費	92,673	イベント企画等
交通費	14,036	
機関紙発行事業費	464,373	生き活きレポート発行費 3回
宣伝事業費	15,720	ホームページ編集、ポスターデザイン料、他
調査研究費	42,498	研修参加費、交通費、書籍代、等
寄付金	183,844	埼玉県ネット分担金、他
諸会費	46,000	埼玉県ネット会費、他
公租公課	639,540	代理人国民健康保険税、国民年金保険料
積立特別会計繰入	1,079,183	選挙用積立金、退職金積立金、納税準備金
小計	3,602,050	
次期繰越金	1,083,578	
合計	4,685,628	

II 積立特別会計 単位:円

項目	決算額	備考
前期繰越	790,000	
支出	0	
一般会計より繰入	1,079,183	
次期繰越	1,869,183	

市民ネットは代理人(議員)の報酬を活動資金として活用し、会計の流れを透明化、情報公開しています。

政務活動費は、会派に出ているので、個人では使っていません。